

七高後夜祭

7班

要旨

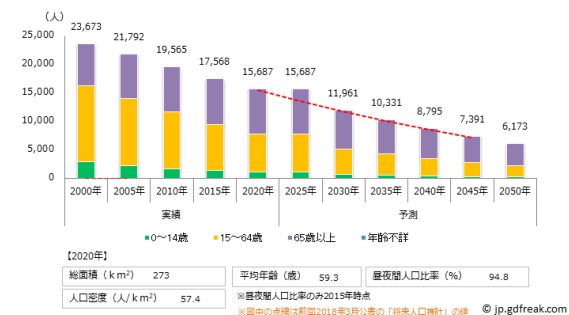
私たちの班は教員不足に着目し、職場での働きやすさ向上や話しやすい環境づくりに取り組んでいる。働きやすさについてなどのアンケートを通して、教員不足についての問題点を表面化し、問題解決に向けての解決策を考えた。解決策として、先生方のみでの後夜祭を企画しようと考え、先生方にプレゼンをするなどして、同窓会の実現に向けて取り組んでいる。現在は同窓会への参加に前向きでない先生方へのアプローチの仕方を課題としている。今後の予定としては、先生方の実行委員という形で協力してもらい、後夜祭の具体的な内容を決めるなどして、実現しようと考えている。

調査①

1-1.研究背景と目的

私たちは能登の解決すべき課題として少子化が深刻になっていることに着目した。

能登町の人口推移



https://jp.gdfreak.com/chartimage/jp0100500000010/jp010050000001017202_1.png

図1 能登町における14歳以下の人口減少

さらに、少子化の原因として未婚率の高さに着目した。

35～39歳女性の20%が未婚 **35～39歳男性の32.5%が未婚**

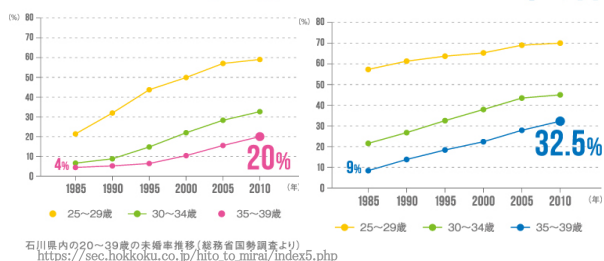


図2 石川県の未婚率の推移

よって結婚率を上げることで少子化を解決しようと考えた。そこで、人が関わる出会いの場を増やして結婚相手を見つける機会を増やす融合プロジェクトを行おうとした。

1-2.調査、分析

この研究では、七尾高校の教員に対してアンケートを行った。アンケートの内容としては、出会いの場が少ないと思うかや、教員同士の出

い場となるイベントがあったら参加したいかなどの項目である。そのアンケートから、出会いの場が少ないという意見が多く、そのイベントに参加したいという意見も得られた。

小、中、高校の先生同士が交流するイベントの企画を考えています。

参加したいと思いますか？

15件の回答

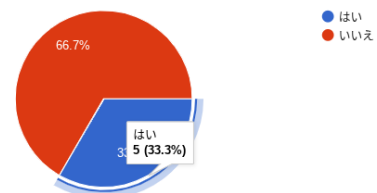


図3 先生へのアンケート結果

1-3.解決に向けた提案と実践

結婚率を上げる方法として教員同士の出会いの場となるイベントを作ることを提案した。七尾高校の教員に対してアンケートを取ったところ同じ職種の人と交流するイベントは仕事のことに関する話を共有するだけで終わってしまう、面倒くさいなどの意見が得られた。この結果から、結婚相手を探すというイベントには参加しづらい人が多いと考え婚活がテーマではなく友達作りにも繋がるというイベント作りに取り組んだ。イベント内容として、食事、料理、スポーツ、ボードゲームなどが挙げられた。しかし、参加しづらいという意見や、プライベート面での不安を挙げる意見のほうが多く、この研究は断念した。

調査②

2-1.研究背景と目的

調査①を断念したので、先生方のストレスを減らすことを目標として、特に人間関係の改善に注目した。そこで人間関係が良くなり話やすくなることで不満や相談をお互いにしやすくなり、ストレスが減ると考え、新しい企画として七尾高校の忘年会を復活させることを考えた。

2-2.調査・分析

この研究でも七尾高校の教員に対して異なる内容でアンケートを行った。アンケートは、仕事面での不安や働きやすさに関して気軽に相談できる教員が七尾高校内にいるかや、働きやすいと感じるかに関する項目に加えて、交流の場のイベントを開催するとしたら参加したいかなどの内容で行った。そのアンケートから、気軽に相談できる教員が少ないことや、イベントに参加したいという意見が多く得られた。そのため、七尾高校の教員が交流できるイベントを企画した。そのイベントとして、教員のみでの「七高後夜祭」を考えた。このイベントにより、職場での相談相手ができたり、一人で抱え込まないなどの利点が得られる。

2-3.解決に向けた提案と実践

先生方が仕事の悩みや不安を一人で抱え込みやすいことや気軽に相談できる相手が少ないことが課題だと考え、また七尾高校では忘年会などの先生みんなで集まる会が行われていないことを知り、七高後夜祭を提案した。先生みんなで集まる機会を作ることで先生たちの働きやすさに繋がると考えた。

まず、七高後夜祭についての日時や場所、予算、想定人数を書いたポスターを作成し、実際に開催された際のイメージがしやすくなるようにした。



図4 作成したポスター

次に、この企画を本校の校長先生にプレゼンテーションし、企画に対するご意見を伺った。校長先生からは、コロナの発生以前の状況や校長先生の経験談を教えていただき、自分たちでは考えなかったメリットやデメリットがあると感じた。メリットは人間関係を円滑にしていくために効果的なこと、また校長先生のお話から、学校という公式の場と学校外の非公式の場を組み合わせることで忘年会を行うことでより親密な人間関係を築けることと考察した。

しかし、働き方改革などが進む現代社会において、忘年会などの行事は勤務時間外のものであり、個人の負担が重くなるというデメリットも分かり、参加を躊躇うような障壁をなるべく取り除いて企画することが必要だと考察した。

プレゼンテーションで用いたインフォグラフィックには、七高後夜祭の開催を企画するまでの流れや、先生方が交流することの価値、また参加しない人の負担を軽減するための解決策などをまとめた。

先生方が交流することの価値は、相談相手ができて先生方が働きやすくなり、チームワークの向上につながることが挙げられる。また、コロナウイルスの流行後に先生方の交流が減少した原因として、人と距離をとる生活が続いたことで、以前の関わり方に戻るきっかけがないことがある。七高後夜祭に参加しない人の負担を軽減するためには、声掛けを工夫したり、写真を共有することを考えた。

七尾高校ではかつて忘年会だけでなく、先生方の壮行式や旅行など、先生同士が交流する機会がたくさんあったそうだ。このような機会が失われた原因として、コロナウイルスの流行だけではなく、働き方改革の動きや能登半島地震も関係しているのではないかという意見をいただいた。

3. 考察

校長先生によると、現状として、勤務時間外の交流は同世代や担当する学年といった中規模なものが多く、学校全体で交流する機会は少ない。しかし、世代を超えて人の得手不得手を把握しお互いに頼れる関係性を築くことは、問題が生じた際によりはやく解決するために不可欠である。よって、誰に頼るかを知れるネットワークを築けるこのような交流イベントは、開催による個人の負担というデメリットがありつつも、やはり必要であると考察した。

4. 今後の課題と展望

先生方だけのイベントを企画するにあたり、イベントへの参加に前向きではない先生方へのアプローチが課題である。参加をためらう理由として、仕事終わりや休日に予定が入ることへの負担や、参加する必要性をあまり感じられないことなどが考えられる。この課題を解決するために、学年や教科を超えた交流ができ、より親睦が深められることなどのような、イベントに参加するメリットを先生方へ伝えるとともに、直接参加を呼びかけることを考えている。また、イベント運営に協力してくださる先生方を募集し、開催日時や

場所などの詳細については、先生方と協力しながら決定していく予定だ。

5. 結論

先生方の交流イベントを企画し、イベントの意義を考えることで、学校全体のイベントは人間関係を親密にする上で有効だと分かった。

6. 参考文献・協力団体

・図1 GD Freak!

<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001017202/1>

・図2 ひとtoみらい

https://sec.hokkoku.co.jp/hito_to_mirai/index5.php